

平成 20 年度から続くシアトル小児病院派遣ですが今回、私は最年長で研修させて頂くことになりました。研修期間は 3 月 2 日から約 4 週間でこの間、1. 脳神経外科研修（主に脳腫瘍手術とてんかん外科）、2. 脳腫瘍治療チームへの参加、3. 脳腫瘍緩和治療の研修、4. 臨床に従事しながらの研究活動の見学、5. 効率がよい電子カルテの使用、を主眼に国際交流部門のマネージャー Julie さんにプログラムを組んで頂いて限られた時間で多くのことを学ばせて頂き感謝しています。

最初に行った事は十分な時間を確保して頂いた各部署のスタッフの方々との質疑応答で、これにより私が学びたいことを整理する事ができました。実際の研修では早朝からスタッフの方と同行し現場でどの様な方針決定や検討会がなされ、診療が実行されているかを見聞きする機会を得る事ができ、更に終わった後も質疑応答の時間を設けて頂くことができました。特に脳神経外科においては Director の J.Ojemann 先生のご厚意により電子カルテを使用させて頂き、実際の症例の入院前外来での診察から入院して手術に至るまでを学ばせて頂き、手術見学、各カンファレンスへの参加、更にシアトル小児病院の研究センター、ハーバービューメディカルセンターでの見学・研修もご配慮頂き多くの貴重な経験を得ることが出来ました。

脳神経外科はシアトル小児病院でも多忙な部署で、Attending doctor 4 人が定期の手術を行い、その下で Fellow 2 人の先生が小児脳神経外科医になるべくトレーニングを受け、ワシントン大学から 6 ヶ月交替で Resident の先生 1 人が研修されていきました。このスタッフで 2012 年度は 684 例（うちシャント手術 190 例、脳腫瘍 56 例、てんかん外科 42 例）の手術をこなしている現状には驚くばかりでした。Fellow の先生は 2 人交代でしたが Resident の先生は 6 ヶ月間ほとんど休みがないような状態で毎日の診療に従事なさっていました。

私が研修・体験しました実際の病院の仕組み、患者さんへの応対、経験した症例や電子カルテなどについては個人情報の問題もあって制限があるため研修発表会での報告とさせて頂きまましたが、概要は当日 1 例

目の手術の方は当日 6:30 入院、Neuronavigation 用に MRI を施行し、7:30 親御さん同伴で手術室入室、全身麻酔を施行され執刀開始、14:00 には手術終了で直ぐに 2 例目が始まるといったもので、この目まぐるしいスケジュールの中で効率よく診療が行われ、なおかつ患者さんにも親御さんにも十分な配慮が行き届いていたことを体験し、関わっている各部署間各職種間の連携が素晴らしいことによる成果であると感動しました。またなぜ早朝当日入院なのかをお聞きしたところ”No one pays for the day before!”と Ojemann 先生がお答えになったことに日米の文化の差を肌身に感じずにはられませんでした。

私が研修を通して実感し一番心に残ったことは、シアトル小児病院では各部署のスタッフが全員、相対する患者さんやご家族でもスタッフの間でも”What we would do is for the person to feel comfort!”と考えて仕事をしている、と Julie さんがお話してくださったことで深く感銘を受けました。患者さんやご家族が自宅に帰るに当たって何が支障になっているのか、どうすればその問題を解決できるか、をみんなで一緒に議論していくという事もその思想に基づくものでした。その中には治療や看護、リハビリももちろん含まれますし、治療費用や家での環境や子たちの観察の仕方、広い州のなか実際どうやって通院するかといったことにも及びます。また入院した日から退院に向けての目標（Goal＝どういう状態になったら家に帰れるか）を病室の白板に書いて医師、看護師等と本人、家族とで Share します。問題が出てくればその都度、前に進む方向に問題を解決するにはどうしたら良いかをみんなで話し合っって可能な限り入院期間を短縮させるように取り組んでいくことにもその心構えが発揮されていました。

このように院内どの部署においても、どの職種間においても時間を設けて、一つの同じ目標に対して最適な解決法を得るための配慮を行うという姿勢は、仕事が増え続け煩雑な業務と化している私たちにとって大いに学ぶべき点であると思います。実際にシアトル小児病院の脳神経外科 Attending doctor の日常は手術をしているか、治療に関して討論しているか、研究に従事しているか、患者さんとご家族と治療に関して話し合いをしているかのいずれかなのですが、その中でも外来・病室での患者さんとご家族との面談やスタッフ間での Discussion に費やす時間は日

本とは比べものにならないほど長い事には驚きました。私は本研修で、何よりも時間をかけて話をして答え(=Comfort)を出す、という心構えを学ばせて頂き、自分の理想とする診療に至る道を得た様に思います。

最後になりましたがこのような素晴らしい研修の機会を頂きましたことを関わった全ての方々にお礼を申し上げます。一緒に研修に行った方々には楽しい時間を過ごすことができましたことを感謝致します。また新たに研修を志す方にはぜひ多くの事を見聞きして頂きたいと思えます。きっと素晴らしい経験が出来ると確信しています。